

令和 2 年 度 学 校 自 己 評 価 シ ス テ ム シ ー ト (県 立 鴻 巣 女 子 高 等 学 校)

目 指 す 学 校 像	(1) 自立した女性の育成 (2) スペシャリストの育成
-------------	------------------------------

重 点 目 標	1 学習環境の整備と事前学習等の授業改善を通して、生徒一人一人の学力を向上させる。 2 外部機関と連携しきめ細やかな指導を通して、生徒の主体的な自己実現を支援する。 3 多彩な学校行事や規律ある高校生活を通して、生徒一人一人を大切に作る指導を推進する。 4 地域との連携事業や情報発信を通して、地域に貢献する学校づくりを推進する。
---------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達 成 度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	3名

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)			
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策
1	<p>(現状) 学習環境づくりの指針、「授業5原則」「CLEAN THE TABLE」「朝読書」が徹底して、大半の生徒は落ちついて学習活動を行っている。また、家庭学習時間が増加傾向にあり、自ら学ぼうとする姿勢が向上している。</p> <p>(課題) 各生徒に学科・教科ごとの具体的な目標を持たせ、学習意欲や学力向上に資する学習指導の改善を行うとともに、支援を必要とする多様な生徒への対応とICT活用等、学びの質を高める方策を拡充する必要がある。</p>	生徒一人一人に学科・教科ごとの具体的な目標を持たせ、学習意欲や学力を向上させる。	<p>①学科毎に年間学習計画を説明する。(学年) 授業毎の年間学習計画を説明し各自の目標を明確にする。(授業担当)</p> <p>学期毎に振り返りを行い各自でまとめさせる。(授業担当)</p> <p>②授業外の学習(課題・予習・復習)を具体的に指示して提出させる。(授業担当)</p> <p>③授業評価アンケートを行い、年度内授業改善に活かす。(授業担当)</p> <p>④各種研修会や授業公開週間等で教員間の学び合いを充実する。(複数回実施)</p>	<p>①③学習意欲と学力向上の意識高めた生徒の割合(前年度比1割増)</p> <p>②家庭学習時間の状況(前年度比較)</p> <p>④研修会等の実施状況と成果</p>	<p>コロナ禍により「学習保証」を最優先とした対応を行った。生徒一人一人に応じた指導が例年に比べ難しい状況であった。</p> <p>①③:学力向上の実感(70%→73%) 課題提出の自己評価(91%→95%)</p> <p>②:家庭学習時間の状況(1時間以上:20%→19%)</p> <p>④県教委による授業研究支援訪問や学びプロジェクト研究員の委嘱、特別支援教育推進やICT活用にかかる職員研修会など教員の指導力向上を目的とした校内研修会を実施した。</p>	B	オンライン授業などコロナ禍においても効果的に実施可能な学習指導体制の整備が課題となる。また、各教員のICT運用能力の向上も不可欠である。予測が困難なコロナ禍の影響により、当初目標に対して適切な課題や改善策の分析が難しい。
2	<p>(現状) 自立した女性の育成を目指し、外部機関と連携しながら、本校の生徒現状に沿った体系的な進路指導により一定の成果を得ている。</p> <p>(課題) 一人一人の進路実現に向け、生徒個々の状況把握と適切なアドバイスが必要である。また、保護者に対する情報発信と進路行事への参加機会の充実等、家庭連携の深化も課題である。</p>	生徒一人一人が自己理解を進めるとともに、将来に向かって積極的に考えるように、進路指導やキャリア教育を拡充する。	<p>①基礎力診断テストの結果を活用して、生徒実態を把握する。(進路部・学年)</p> <p>②進路の手引きを定期的に使用して、進路行事・キャリア教育の振り返りを行う。(学年・クラス)</p> <p>③進路希望調査、二者面談、三者面談を実施して個々の進路希望状況と相談を行う。(担任)</p> <p>④講演会や相談会など、保護者への進路関連行事を実施する。(進路部)</p>	<p>①テスト結果の分析と活用状況</p> <p>②③進路意識を高めた生徒の割合(前年度比1割増)</p> <p>③進路未決定者の割合(前年度比較)</p> <p>④保護者の進路行事参加状況と成果</p>	<p>コロナ禍により、学校再開の遅れや就職活動期間の変更等により、当初計画(ガイダンスや外部講師による講義など)の実施が困難であった。</p> <p>①基礎力診断テストの結果を学習指導や進路指導に活用した。</p> <p>②進路の手引きを活用し、希望分野別の系統的な指導を行った。(進路行事に積極的に参加81%→87%)</p> <p>③進路未決定者の割合(7.8%→7.5%)</p>	B	コロナの影響により、当初の指導計画が進められなかったこともあり、適切な課題や改善策の分析が難しい。ICTを活用した「オンラインによる指導方法」の構築が将来的に不可欠であると考えられる。保護者への情報発信を積極的に行うとともに、講演会や相談会などへの保護者参加機会をさらに充実し、家庭との連携を深化させる必要がある。
3	<p>(現状) 学校行事に積極的に参加する生徒が年々増加しており、多くの生徒が主体的に参画する姿勢が伺える。また、基本的生活習慣の確立や自己管理能力の向上させる取組により、生徒の自己肯定感を高める指導を行っている。</p> <p>(課題) 生徒自身の将来像を考え、卒業後、1年後、3か月後等、様々なスパンで学校生活を意識させる取組が必要であり、生徒個々の状況に応じた、相談や支援体制を活用し、個別の対応計画と支援実施を全ての職員で行っていく仕組みを構築する必要がある。</p>	生徒の自己管理能力の育成、各種の個別支援体制を改善する。	<p>①生徒手帳の使用方を説明して自己のスケジュール管理を徹底させる。(クラス担任)</p> <p>学校生活を中心に自己管理ができていないか、生徒手帳の記入を確認する。(クラス担任)</p> <p>②各種のマナーの向上や良好な人間関係の構築、SNSトラブル等に関する講演会、学習会を実施する。(生徒指導部、在り方生き方に係る教育推進委員会)</p> <p>③荷物ダイエット等、日常的に整理・整頓できるように粘り強い指導を行う。(学年)</p> <p>④不安や悩みを持つ生徒への教育相談やカウンセリング機能を整えて実施する。(体制の整備・強化)</p>	<p>①②③学校生活アンケート調査結果による成果と前年度比較</p> <p>①自己管理の意識を高めた生徒の割合(前年度比1割増)</p> <p>④個別支援に関するアンケート項目の肯定的回答(前年度比1割増)</p>	<p>コロナ禍の感染防止の取組により、自己管理能力の育成が難しい場面もあった。</p> <p>①手帳を活用したスケジュール管理を試行し、来年度全導入の準備を進めた。</p> <p>②非行防止等の講習会や学習会を実施し、生徒の積極的な取組や肯定的な感想など成果が見られた。</p> <p>③「CLEAN THE TABLE」や「あいさつ」に対する生徒自己評価はそれぞれ98%と97%と肯定的な回答が高い。</p> <p>④教育相談・特別支援教育委員会の定期開催とともに、本校独自のカウンセラーを活用した支援体制を強化した。</p>	A	コロナ禍の影響で、前例踏襲的な指導方法を見直す必要がある。特に、コロナの影響とも思われる、心身ともに不調を訴える生徒が散見されることから、より効果的な教育相談・特別支援体制の構築と教職員の指導力向上が課題である。
4	<p>(現状) 地域等の催し物・イベント参加依頼が増加し、交流事業は年々変化・充実して開かれた学校づくりを推進している。また、文化祭・体育祭等の学校行事も来場者が増加している。</p> <p>(課題) 地域イベントの実施時期や参加時間等、調整事項が多分にあるが、生徒の社会貢献意識は高い。学業優先を第一としながら、外部との連携を深め、WIN・WINの関係づくりに学校全体で取り組むことが課題である。</p>	生徒の活躍の場を拓き、自己肯定感や自己有用感を高める。	<p>①多くの生徒が地域交流や学校行事に参画できるように丁寧に粘り強く指導・支援する。(通年:特別活動部、教科担当)</p> <p>②各種の体験活動、県の事業活動の内容改善を図る。(教科担当)</p> <p>③新規の、イベント、ボランティア要請に対応、適切に参加できるように支援する(担当)</p>	<p>①③地域交流等の実施状況と成果</p> <p>①学校行事に積極的に参加する生徒の割合(前年度比1割増)</p> <p>②③体験活動、ボランティア参加等に関するアンケート調査結果による成果(前年度比1割増)</p>	<p>コロナ禍の地域連携や学校行事の中止や変更により、生徒の活躍場面が減少したが、実施方法等を工夫するなど、生徒の学習活動の発表の場を設けた。</p> <p>①学校行事を非公開にするなど実施方法を工夫(学校行事に積極的に参加する生徒の割合(94%→96%))</p> <p>②保育科、家政科学科による保護者限定の「学習成果発表会」などを実施し、好評を得た。</p> <p>③要請はあったが、コロナ禍の影響により、新規ボランティアへの参加機会はなかった。</p>	B	コロナ禍の影響で、当初の目標に対する指導計画の実施が難しかった。「県がドライン」など限定された条件の下で、国や県からの急な要請などにより、地域連携や校外活動等の積極的な参加が非常に難しかったが、地域からの依頼に対しては可能な限り対応した。HPの更なる拡充など広報の工夫により、コロナ禍における情報発信力の強化が課題である。

学 校 関 係 者 評 価	
実 施 日	3 年 2 月 1 2 日
学 校 関 係 者 か ら の 意 見 ・ 要 望 ・ 評 価 等	
<p>生徒は授業をしっかりと受けていて学習に対する生徒の自己評価も高い。コロナ禍においてオンライン学習は必要不可欠だと思うが、オンラインで運用可能なものと直接先生と生徒が対面した方が良いものを見極めが重要である。全てをオンライン化で対応しようとすることは必ずしも適当とは言えない。一方で、特別な支援が必要な生徒への対応に関するICT活用については具体的な運用方法の考察・実施も今後の大きな課題であると考えている。</p> <p>基礎力診断テストの継続的な活用効果が、生徒の「充実した進路指導」の自己評価につながっていると考える。学校からの情報と先生との相談により具体的な進路の選択肢が見えた。進路選択において先生との対話の機会は生徒にとって心強いものである。生徒の大学進学に対する意識も高い。コロナ禍でオープンキャンパスが中止になり、志望校が絞れず受験勉強を効率的に行えないケースもある。そのため、卒業生を活用したOGとの交流会を設定し、大学入学後の実際の様子など進路について自由に語り合える行事の企画や多様な進路に対応するための教育課程編成など、新しい取組の検討が課題である。</p> <p>大きな声でしっかり挨拶できる生徒が多い。「CLEAN THE TABLE」などの取組に対する生徒自己評価が高いことから生徒指導が機能していることが伺え、生徒たちが将来、社会で生活するために必要な基本的な部分が身につけている。この状況を継続できることを期待したい。「自己管理」は人の目があってこそ身に付くものと考え。そのため、やはり先生・学校の直接の指導は必要だと思う。コロナで修学旅行に行けなかったのは本当に残念だった。代わりに学年でできる行事を体験したい。また、生徒間のトラブルで多いのはSNSによるものであるが、このトラブルは人間関係の修復に時間がかかる。SNSのトラブル防止だけでなく、トラブル発生後のサポートなど対策が課題である。</p> <p>コロナ禍で様々な学校行事が中止される状況においても「学校行事に積極的に参加する生徒の割合」が向上しており、限られた条件下で工夫された取組がなされている。生徒一人一人のモチベーションを維持し、自己肯定感や有用感を高めることは難しい状況だったと思うが、中でも限られた活動場面で生徒たちが積極的に参加するなど、工夫を凝らした取組の効果は大きい。鴻巣女子高校のイベントは生徒だけでなく、保護者・地域の方々達も非常に楽しみにしている。コロナ禍で一番難しい課題ではあるとは思いますが、引き続き可能な範囲で取り組んで欲しい。また、鴻巣市には有名なものがたくさんあるので、生徒会でもそれらを活用して、鴻巣市との地域連携をさらに発展させたいと思う。</p>	

